

臺 利夫教授年譜・研究業績

〔略 歴〕

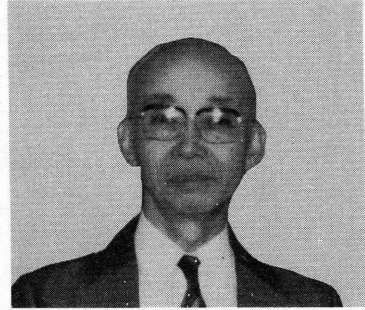
昭和2年7月 東京都渋谷区で生まれる
昭和27年3月 東京文理科大学心理学科卒業
昭和27年4月 法務技官（心理）となり横浜・高松・東京の各少年鑑別所に勤務
昭和42年3月 法務省を退官
昭和42年4月 国学院大学文学部助教授
昭和49年4月 国学院大学文学部教授
昭和50年9月～ 国学院大学海外派遣研究員（ニューヨーク医科大学）
昭和51年7月 国学院大学退職
昭和55年3月 筑波大学教授（心理学系）
昭和55年4月～平成3年4月 筑波大学教授（心理学系）
昭和59年4月～ 筑波大学付属大塚養護学校校長
昭和62年3月 （併任）
昭和63年4月～平成2年3月 筑波大学心理学系長・評議員（併任）
平成3年3月 筑波大学教授定年退官
平成3年4月 筑波大学名誉教授
平成3年4月 文教大学人間科学部教授
平成5年4月 文教大学大学院人間科学研究科教授（臨床心理学専攻）
平成10年3月 文教大学定年退職予定
非常勤講師歴：東京学芸大学・明治学院大学・和光大学・中央大学・立教大学・昭和女子大学

〔学 位〕

昭和56年11月 文学博士

〔社会的活動〕

昭和52年～昭和55年 総理府 青少年非行問題に関する懇話会委員
平成2年～平成4年 文部省 学術審議会専門委員
昭和63年～現在 日本臨床心理士資格認定協会 評議員



〔資 格〕

協会認定臨床心理士（33号），学会認定心理士（88号）など

〔学会活動〕

昭和58年～平成元年 日本心理学会理事（昭和58年～昭和61年 常任理事）
昭和59年～平成9年 日本犯罪心理学会理事（平成2年～平成6年 常任理事）
その他の所属学会 日本心理臨床学会，日本心理劇学会，人間—環境学会など

〔研究業績〕

〔著 書〕

1. 『青年—病理からの省察—』（共著）昭和45年10月，福村出版。
2. 『MAPS人格投影法』昭和50年7月，日本文化科学社。
3. 『臨床心理劇入門』昭和57年4月，ブレーン出版。
4. 『カウンセラー』（共編著）昭和57年6月，有斐閣。
5. 『現代の非行』（共著）昭和58年11月，教育出版。
6. 『心理劇と分裂病患者』昭和59年11月，星和書店。
7. 『ロールプレイング』昭和61年4月，日本文化科学社。
8. 『心理臨床家の目指すもの』（共編著）昭和61

年7月, 金剛出版.

9. 『現代臨床心理学』(共編著)平成2年4月, 教育出版.
10. 『集団臨床心理学の視点—心理劇を軸にして—』平成3年5月, 誠信書房.
11. 『出会いの心理学—顔とコミュニケーション—』平成9年6月, 教育出版.

[翻訳]

1. モレノ, Z. T. 『サイコドラマ, 役割理論およびソーシャルアトムの概念(二十一世紀の心理療法)』(ゼイク編, 成瀬悟策監修)平成2年11月, 誠信書房.
2. ホームズ, P. 『心の世界と現実の世界の出会い—サイコドラマと対象関係論—』(共訳)平成7年12月, プレーン出版.

[辞典]

- 『多項目 心理学辞典』(共編著)平成3年9月, 教育出版.

[学術研究誌掲載論文]

1. 『精神分裂病者における作業中断の効果』昭和31年12月, 教育心理学第5集.
2. 『鑑別面接の方向づけ』昭和34年1月, 矯正医学8巻3号.
3. 『少年鑑別所における処遇の研究』(共著)昭和38年6月, 矯正医学12巻2号.
4. 『非行少年の心理療法』昭和38年9月, 犯罪心理学研究1巻1号.
5. 『矯正処遇技術としての役割訓練』昭和40年2月, 臨床心理4巻3号.
6. 『非行と家族集団』昭和43年5月, 犯罪心理学研究5巻2号.
7. 『社会不安と犯罪』昭和43年11月, 年報社会心理学第9号.
8. 『訪問による家族診断の試み』昭和44年9月, 犯罪心理学研究6巻2号.
9. 『精神障害者の心理劇的集団療法への出席の仕方』昭和45年6月, 心理学研究41巻2号.
10. 『MAPS変形法の分裂病者への適用』昭和50年1月, 相談学研究8巻1号.

11. 『慢性分裂病者に対する心理劇の技法』昭和56年3月, 精神医学23巻3号.
12. 『集団療法としての人形劇作製』(共著)昭和58年6月, 臨床精神医学12巻6号.
13. 『カウンセラーにとっての理論』平成2年7月, 心理臨床学研究8巻1号.
14. 『‘健康な心’について』平成3年11月, 心理臨床学研究9巻2号

[紀要掲載論文]

1. 『課題解決場面における行動観察』昭和28年10月, 分類鑑別研究第1集.
2. 『鑑別所における外来鑑別少年の相談と指導』昭和34年9月, 四国矯正科学第15集.
3. 『少年簿に記す性格診断』昭和35年10月, 四国矯正科学第14集.
4. 『地域社会の中核としての少年鑑別所の一般鑑別の在り方』昭和41年9月, 矯正研究3号.
5. 『薬物嗜癖者と否定的同一性』昭和45年12月, 国学院大学教育学研究紀要6号.
6. 『心理学的諸技術の役割と限界』昭和49年3月, 国学院大学教育学研究紀要.
7. 『自我と役割』昭和52年3月, 私学研修74号.
8. 『現代における同一性問題の根と分岐』昭和53年1月, 国学院雑誌79巻1号.
9. 『MAPSによる関係体験の比較文化的研究』昭和56年3月, 筑波大学心理学研究3号.
10. 『ロールプレイングによる非行少女へのアプローチ』昭和60年8月, 筑波大学臨床心理学論集第1集.
11. 『臨床心理学実習のあり方』昭和63年7月, 筑波大学臨床心理学論集第2集.
12. 『目覚めながらの自我』昭和63年11月, 筑波大学臨床心理学論集第3集.
13. 『臨床心理学の基礎的視点Ⅰ. 体験と条件』昭和63年2月, 筑波大学心理学研究第10号.
14. 『内的体験からみたスチュウデントアパシーの特性に関する一考察』(共著)昭和63年2月, 筑波大学心理学研究第10号.
15. 『ダウン症学童にみる創意』昭和63年12月, 筑波大学臨床心理学論集第4集.
16. 『臨床心理学の基礎的視点Ⅱ. 意味と関わり』平成1年3月, 筑波大学心理学研究第11号.

17. 『サイコドラマの回顧と展望』平成1年4月,
日本臨床心理劇協会年報11号.
18. 『幼少期から盗癖のあった少女の事例』平成2
年3月, 筑波大学臨床心理学論集第5集.
- 19, 20. 『心理臨床家のためのレヴィンの遺産Ⅰ・
Ⅱ』平成2年3月・平成3年2月, 筑波大学心理
学研究第12号・第13号.
21. 『人の世にはたらく心の理<ことわり>』平成
3年3月, 筑波大学臨床心理学論集第6集.
22. 『心理劇における多次的思考の活用』平成4
年2月, 日本臨床心理劇協会年報第13・14合併号.
- 23, 24. 『顔とコミュニケーションⅠ・Ⅱ』平成5
年2月・平成5年12月, 文教大学人間科学研究第
14号・15号.
25. 『実務の場において与えられた役割を自分なり
に演じること』平成6年3月, 文教大学生活科学
研究第16集.
- 26, 27. 『顔とコミュニケーションⅢ・Ⅳ』平成6
年12月～平成7年12月, 文教大学人間科学研究第
16・17号.
28. 『開発的グループにみる対人理解度の発展Ⅰ.
中途参加者の同化を中心に』平成7年12月, 文教
大学人間科学研究第17号.
29. 『顔とコミュニケーションⅤ.』平成8年12月,
文教大学人間科学研究第18号.

(諸他の雑誌・講座等掲載論文省略)

平成9年10月現在.